

# じわりと忍び寄る中国リスクをどうみるか？



シニア・ストラテジスト 石黒英之

## ポイント① 輸出と輸入が予想以上の落ち込み

中国税関総署が8日発表した7月の貿易統計（米ドルベース）では、輸出が前年同月比14.5%減と市場予想（13.2%減）を上回る減少となり、20年2月以来の大幅減となりました。輸入も同12.4%減と市場予想（5.6%減）を上回る落ち込みとなるなど、外需と内需の低迷が中国経済の重しとなっている姿を浮き彫りにしました（右上図）。

中国では8日、不動産大手企業の米ドル債の利息未払いや商業用不動産大手企業の幹部が不正に関与した疑いで当局に連行されたと報じられており、中国の不動産業界も依然厳しい状況にあることを示しているといえます。

## ポイント② 中国の景気対策余地は依然大きい

こうしたなか、政府が景気対策をとると上昇し、引き締めに動けば低下する傾向のある中国のクレジットインパルスは足元でマイナスで推移しており、中国政府は本格的な景気下支え策に未だ動いていないとみられます。ただ、こうしたデータは裏を返せばそれだけ景気対策の余地が大きいともいえ、今後の中国経済の先行きを見る上では支援材料といえそうです。

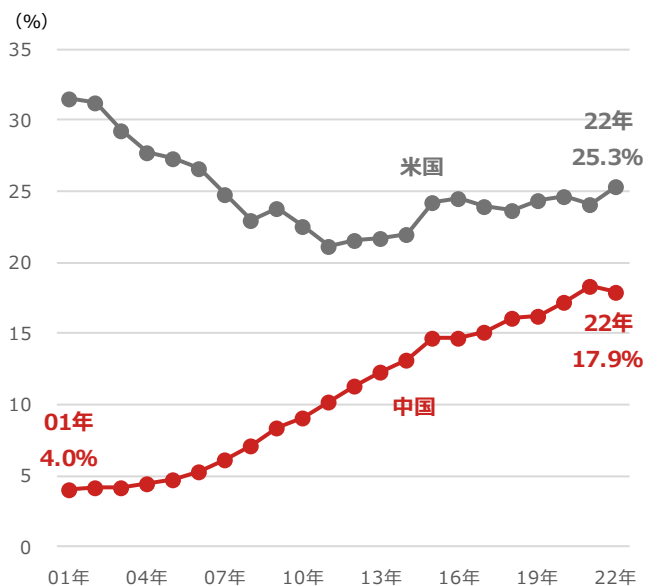
01年以降、世界における中国の存在感は高まっており、世界経済に与える影響は無視できない規模となっています（右下図）。当面は中国政府による効果的な景気対策がいつ打ち出されるかが焦点となります。一方、世界一の経済大国である米国の景気の堅調さが続いており、中国の低迷を米国がどれだけカバーできるかもポイントです。中国経済の先行き懸念から8日の欧米の株式相場が下落するなど、中国リスクへの警戒はくすぶりますが、景気対策余地の大きさから、現時点では中国リスクの深刻化は回避できるのではないのでしょうか。

## 中国の輸出と輸入の前年同月比（米ドルベース）



期間：2013年1月～2023年7月、月次  
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

## 世界のGDP（国内総生産）に占める米国と中国の比率



期間：2001年～2022年、年次  
・GDPは世界銀行のデータを用いた  
・GDPは名目GDP（米ドルベース）  
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

\*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。